

地方都市における市民の公園観の変遷*

The transition of citizen's perception about park system in the local cities

田中尚人**・秋山孝正***・古田壮志****

by Naoto TANAKA, Takamasa AKIYAMA and Soushi FURUTA

本研究では、地方都市における近代以降の公園整備とその利用の実態を通じて、市民の公園観及び都市アメニティの各時代の特徴やその変遷を明らかにすることである。城下町を起源とする地方都市岐阜を対象として、史料・文献を用いて公園の計画意図、設計思想、機能を読みとり、写真資料、新聞資料などから市民の利用実態、要望を分析した。研究の成果として、岐阜市の公園整備における都市計画的な視点や空間整備方針、時代毎の整備と利用実態との関係性が指摘され、既存の都市空間を基盤として社会的背景と空間整備が市民の公園観形成に与える影響が明らかとなった。

1. はじめに

(1) 研究の背景と目的

全国の都市の中でも、近世城郭都市、城下町を起源とする都市は多い。本研究は、そのような城下町起源の都市の一つとして地方都市岐阜を対象とした。近世以来の都市計画の上に成立した一地方都市である岐阜市において、近代以降に整備された公園システムが人々に受容されていく過程に焦点を当てた。

本研究の目的は、地方都市における公園整備、市民の公園観に関する記述を整理し、主に公園において展開された都市アメニティの各時代の特徴やその変遷を明らかにすることである。

(2) 研究の手法と構成

まず岐阜県史¹⁾や岐阜市史²⁾などの基礎文献^{3, 4, 5)}、行政資料及び整備図面から社会背景及び公園整備の変遷を整理し、公園計画、設計の意図を明らかにした。次に、絵図や写真、新聞資料から各時代における市民の公園利用の実態を調査し、市民が公園整備に求めている都市アメニティ、またそのアメニティを提供するための公園空間の特徴(形、機能)を分析した。これらの分析の視点より、時代毎の市民が公園に思い描いていた公園観について考察した。

(3) 既往研究と研究の位置づけ

都市公園は土木工学以外にも、造園や建築、都市計画、社会学などの幅広い分野において研究が行われている。

日本の風土や生活文化・日本人のライフスタイルに対応し地域性を重視した「公園づくりを考える」⁶⁾、水や緑などの造園の手法に基づく公共空間づくりを提唱する「アメニティ・デザイン」⁷⁾、まちづくりにおける公園計画の実践などに関する文献を参考とさせて頂いた。

既往研究として、日本における公園制度の受容過程、都市との関係を分析した「公園の誕生」⁸⁾がある。その他、日本における公園史の基礎文献として、「近代日本公園史の研究」⁹⁾、「近代都市公園史の研究—欧化の系譜」¹⁰⁾などを参考とした。個別の公園の整備や利用について研究したものに、受益者負担制度に着目した土井¹¹⁾、時代背景と施設整備に着目した佐々木¹²⁾、公園制度における土地収用の技術に関する丸山¹³⁾、景勝地形成におけるプランナーの存在を指摘した矢ヶ崎¹⁴⁾、近世文化の継承と近代的利用の創出に触れた出村¹⁵⁾の研究などがある。

本研究では、近代岐阜において公園を都市施設として整備してきた歴史を整理し、公園に求められてきた、また実践されてきた都市アメニティを明らかにした。このように都市整備の要求と結果、そこに投入されてきた知恵や工夫を通史的に分析することにより、今後の都市整備における公園の役割や提供すべきアメニティに示唆が得られると考えている。

2. 岐阜市における公園整備の歴史

岐阜市の公園整備に関する事業及び国内、岐阜市における社会的背景をまとめた年表(表-1)を基に、時代区分の設定を行いそれぞれの時代の特徴をまとめ、公園整備図面を用いて計画意図、整備の特徴を分析した。

* Keywords : 公園, 近代化, 景観, アメニティ

** 正会員 博士(工) 岐阜大学工学部社会基盤工学科
(〒501-1193 岐阜市柳戸 1-1 : naotot@cc.gifu-u.ac.jp)

*** 正会員 博士(工) 岐阜大学工学部社会基盤工学科教授

**** 学生員 学士(工) 岐阜大学工学部社会基盤工学科

(1) 近世以前の岐阜市のアメニティ空間

岐阜市には現在、図-1に示したような様々な都市公園が整備されている。中でも特徴的な下記の公園については、近世以前も人々が集まる場所であった由来がある。

- a) 岐阜公園 岐阜市の公園の中で最も古い歴史を持つ岐阜公園は1873年(明治6)に太政官布告を受け設置の申請がなされた。敷地は、近世以前山頂に岐阜城を頂く金華山麓の神社の境内地であった。
- b) 金公園 現在都心の柳ヶ瀬境界南部に存在する金公園は元金神社の境内地の空地を利用して整備された。
- c) 梅林公園 近世以前は代々の地主であった篠田祐助氏の所有する土地であった。雑木が取り払われ「その後」に梅をはじめ、桜、カエデなどの樹木を植えた。これらの樹木の花が美しかったので公園にすることにし、1879年(明治12)「篠ヶ谷園」と名づけて2年後に開園した。こうして公園が出来、それを市民に解放したので、かっこうの行楽地となりおびたしい人出といわれるほどに「ぎわった」¹⁶⁾ 梅園であった。1948年(昭和23)篠田氏が庭園を岐阜市に寄付し、梅林公園として開設された。

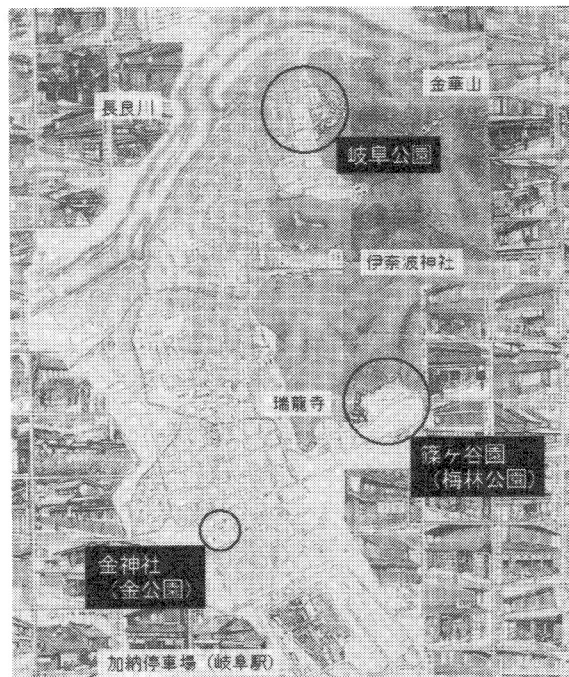


図-1 近代初期のアメニティ空間
(1889年『岐阜市街地全圖』をもとに筆者作成)

表-1 岐阜市における公園整備に関する年表(参考文献を参考に筆者作成)

年代	全国に関する事項	岐阜市に関する事項	岐阜市の公園に関する事項
I	1873年 明治6年 全国地租改正 太政官布告が発令	岐阜県で地租改正事業を開始	太政官布告を受け、岐阜公園の設置を申請
	1874年 明治7年 内務省上野公園地実測図作成(内務省初の実測図)	岐阜中教院建設	岐阜公園開園式。当時は丸山公園と称す
	1877年 明治10年 市制、町村制公布	東海道本線開通	岐阜公園と改称
	1888年 明治21年 土地収用法公布	市制施行され岐阜市となる	岐阜公園の管理、岐阜市へ移管
	1889年 明治22年 内務省官制公布、土木はじめ6局を置く	市役所移転	
	1893年 明治26年 日清戦争始まる	上加納村、岐阜市に編入	
	1894年 明治27年 日露戦争始まる	岐阜市内電話開通	
	1903年 明治36年 日露戦争始まる		岐阜公園：名和昆虫研究所京町から岐阜公園内に移転、拡張
	1904年 明治37年 耕地整理法改正公布		岐阜公園：武徳殿、弓道場設置、金華山麓泉開業
	1909年 明治42年		岐阜公園：岐阜公園開園式(岐阜市による公園整備)
	1914年 大正3年		岐阜公園：大正天皇御大典記念共進会開催 園内で昆虫展覧会・衛生展覧会
	1915年 大正4年	長良川が鉄橋となる	岐阜公園：三重塔、長良橋の木橋廃材利用して建築 中教院岐阜市に移管
II	1916年 大正5年		岐阜公園：大正天皇御大典記念三重の塔竣工
	1917年 大正6年	軍需景気で鶴飼遊覧盛況	岐阜公園：市制30周年記念内国勸業博覧会開催 岐阜公園が第二会場となる。名和昆虫研究所博物館建設
	1919年 大正8年		忠節用水路にて鶴飼をおこなう
	1923年 大正12年 特別都市計画法公布	都市計画法適用	岐阜公園：都市計画法の適用を受ける 鶴飼観覧所建設
	1927年 昭和2年 6大府県に土木部設置		岐阜公園：坂垣退助遺跡碑建立
	1929年 昭和4年 日本最初の空港、大阪飛行場開場		都市計画公園決定される(7公園、1公園道路)
	1931年 昭和6年 国立公園法公布		
	1932年 昭和7年 都市計画東京地方委員会に東京緑地計画協議会設置	本荘村・日野村が岐阜市に合併	
	1935年 昭和10年 内務省、河川堰堤規則を公布	長良川が岐阜市に合併	
		三里村・鷺山村が岐阜市に合併	
III	1936年 昭和11年		岐阜公園：風致地区の指定される(金華山、雄略山、船伏山一帯並びに加納城跡、前色山)
	1937年 昭和12年 内務大臣官房都市計画課を廃し、計画局を設置		岐阜公園：躍進大日本博覧会開催モニュメント女神像建立
	1940年 昭和15年 都市計画法が改正され「緑地」が都市計画施設となる	上加納村・則武村が岐阜市に合併	金公園：都市計画公園の追加決定(2,440坪)
	1942年 昭和17年		岐阜公園：開設区域拡張 金公園、開設
	1943年 昭和18年		岐阜公園：護国神社造営完成(面積5,000坪)
			金公園：児童運動場として厚生省の補助を受け整備
			岐阜公園：御手洗・児童運動場、内務省の補助を受け整備
			岐阜公園：岐阜城模範天守閣焼失
			岐阜公園：坂垣退助像、第二次大戦の金属回収のため供出
			本荘児童運動場内務省の補助を受け整備
			戦災復興都市計画地区画整理決定、特別都市計画法の適用
			岐阜公園：淡水魚水族館建設、金華山ドライブウェイ着工(失業対策事業)、坂垣退助像再建除幕式
			岐阜特別都市計画公園決定(岐阜公園ほか20公園)
IV	1946年 昭和21年 特別都市計画法(戦災復興関係)公布		
	1950年 昭和25年 国土総合開発法公布		
	1951年 昭和26年 「公園施設基準」が定められる		
	1953年 昭和28年 港湾整備促進法公布	大衆観覧所開所	岐阜公園：児童科学館建設、金華山ロープウェイ開業
	1954年 昭和29年 土地区画整理法公布	新長良橋開通	岐阜城天守閣再建開館
	1955年 昭和30年 神武景気始まる	稲葉郡鏡島村・厚見村が岐阜市に合併	県立図書館完成
	1956年 昭和31年 都市公園法公布		岐阜公園：プラネタリウム開館
	1957年 昭和32年 自然公園法公布		岐阜公園：鶴飼第二観覧所建設
	1958年 昭和33年		岐阜ユースホテル完成
	1961年 昭和36年 市街地改造法公布		岐阜市公園課誕生 岐阜公園：日中不戦碑の除幕式
	1962年 昭和37年 全国総合開発計画策定	岐阜市営バスのワンマン化開始	金華山ドライブウェイ全線開通
	1963年 昭和38年 緑地用地買収が国庫補助対象となる	岐阜県、岐阜市新庁舎がそれぞれ完成	
	1966年 昭和41年 中部圏開発整備法公布		岐阜公園：管理事務所建設
	1968年 昭和43年 都市計画法改正公布		岐阜市都市公園条例制定
	1969年 昭和44年 新全国総合開発計画を閣議決定		岐阜公園：こども広場建設、三真塔第3層改修
	1970年 昭和45年 日本万国博覧会(大阪)	名鉄美濃線新岐阜乗り入れ、田神線開通	岐阜公園：売店改修
	1971年 昭和46年 環境庁設置	新都市計画法による岐阜都市計画区域決定	本城公園：市民プール開設
	1980年 昭和55年		ポケットパーク1号として「鶴かがり」完成
	1981年 昭和56年 第三次都市公園等整備五箇年計画が閣議決定		営林署跡地を岐阜公園駐車場に買収(11,378㎡)
	1984年 昭和59年		岐阜公園：金華山トンネル開通、内外苑連絡橋完成
	1985年 昭和60年 「都市緑化推進計画策定要領」が定められる		岐阜市歴史博物館建設に伴い周辺整備(岐阜公園)
			アーバンラング計画による緑のシンボルゲート完成
			岐阜公園：児童科学館移転
			岐阜公園：御手洗池改修、音楽堂取り壊し 市制100周年記念事業、来園者休憩所完成
V	1987年 昭和62年		
	1988年 昭和63年		

(2) 公園開設期 (1873～1889 年)

岐阜市内唯一の公園であった丸山公園 (1889 年、岐阜公園と改称) では、公園地の指定は受けたものの、施設整備に関しては迎賓館兼倶楽部と物品陳列場を設置するにとどまり、整地作業を行った程度で空間的変化は、ほとんど見られない。

(3) 拡張整備期 (1889～1929 年)

市制の施行により改称された岐阜公園では、施設整備が盛んに行われた。京町にあった名和昆虫博物館が移転し、1915 年 (大正 4) 「大正天皇御大典共進会」開催に伴い、昆虫展覧会や衛生展覧会が開かれ、その後御大典記念の三重の塔が建設された。1919 年 (大正 8) には「市制 30 周年記念内国勸業博覧会」第二会場になるなど、人々が集う公共空間としての整備が進展した。

(4) 系統的整備期 (1929～1945 年)

都市計画法により都市計画公園 7ヶ所が決定し、岐阜公園以外にも系統的に公園が配置され、それぞれの目的に応じた空間整備がなされた時期であった。梅林公園 (図-2)、美江寺公園 (図-3) の図面が掲載¹⁷⁾ され、それぞれの機能に見合った空間が整備されていたことが分かる。

当時の岐阜公園では、1936 年 (昭和 11) 「躍進大日本博覧会」が開催され、山麓部に広がる公園敷地内は博覧会会場として十分に活用された。

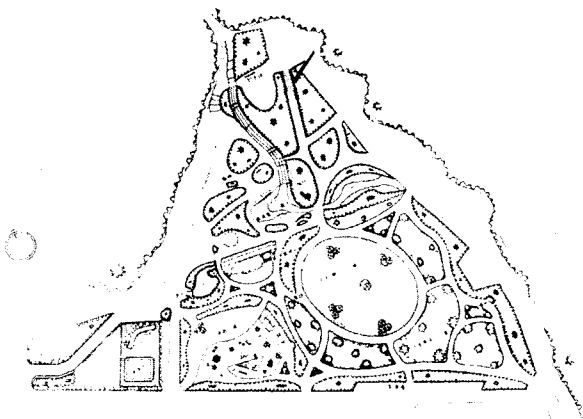


図-2 梅林公園計画図 (『岐阜市の公園』より)

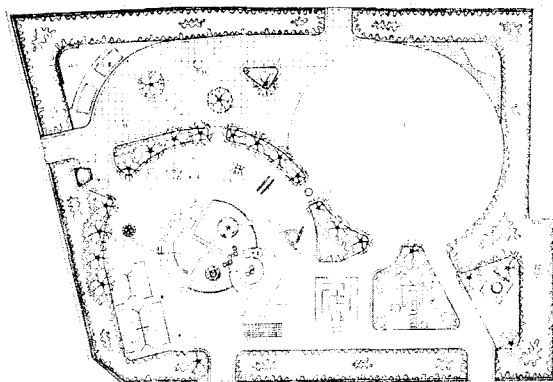


図-3 美江寺公園計画図 (『岐阜市の公園』より)

(5) 施設整備期 (1945～1970 年)

1946 年 (昭和 21) 戦災復興都市計画土地区画整理事業が決定し、特別都市計画法が適用された。岐阜市では、公園用地確保の困難から「小規模の児童公園を各地に分散配置する方針」¹⁸⁾ がとられた。

戦後は児童公園を含め、様々な公園整備に多様化の兆しが見られるようになった。鉄棒やブランコなど遊具以外にも、噴水や野外ステージ、モニュメントなどが設置された。その他にも多くの公園、施設が整備された。

(6) 多角的整備期 (1970～1988 年)

急速な都市化による環境の悪化を背景に、都市内の貴重なオープンスペースとして公園整備に期待が寄せられた。この時期、岐阜市でも公園単体を整備するだけでなく都市全体を面的に整備する計画が提案¹⁹⁾ された。また、都市化の進行に伴う自然の減少によって、公園機能として「自然」、「緑」の整備も多く見られるようになった。

3. 公園利用からみた都市アメニティの変遷

近代以降の岐阜における公園利用実態や要望などを、整備資料、写真、新聞資料を基に時代ごとに整理した。前章で設定した時代区分に従い利用形態の各期の特徴、市民が求めた機能や都市アメニティについて分析した。

(1) 1873 年～1889 年：公園文化の受容期

近世以前は寺社仏閣の境内や名所地が、公共空間としての用に供していたと言われる。西欧からの新たな文化「公園」の移入に関して岐阜の人々は、「散歩・遊歩の風潮を生み出し」²⁰⁾ 近世以来の庭園の楽しみ方の延長線上にこれを位置させた。この時代、公園整備の対象は大人であり、利用者に関する記述は全て成人であった。

(2) 1889 年～1929 年：公園利用の定着期

岐阜公園と改称された当時は、写真-1 に示した通り眺めの整備を重視した公園であった。市制導入後、名和昆虫研究所や武徳殿の建設により、市民の公園利用の目的に「学習」が加わった。この傾向は、「大正天皇御大典共進会」、「市制 30 周年記念内国勸業博覧会」などにおける教育的な施設建設にも見てとれる。施設整備がなされた (図-4) 岐阜公園には人々の賑わう姿が見られ、多くの人々の憩いの場として機能した様子がうかがわれた。

(3) 1929～1945 年：公園毎の利用の多様化

梅林公園、金公園など都市計画公園が整備され、それぞれの公園において違う形態の使用が見られるようになった。特に、それまでは成人を対象とした整備ばかりであった公園も、市内で初めて児童公園として美江寺公園が設置され、児童が公園を利用する姿が多く見られるようになった (写真-2)。写真-3 は 1936 年 (昭和 11) に岐阜公園で開催された「躍進大日本博覧会」の様子である。岐阜公園は「岐阜」を社会的にアピールするイベント会場としての性格を有し、「公園を利用する」というよりは、



写真-1 開設初期の岐阜公園
(岐阜市歴史博物館所蔵)

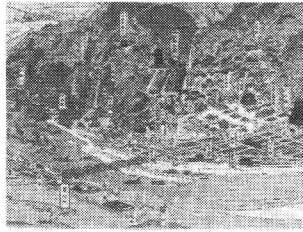


図-4 岐阜公園の様子
(『岐阜市案内』より)

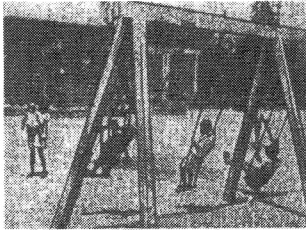


写真-2 美江寺公園で遊ぶ子ら
(『大阪毎日新聞』より)

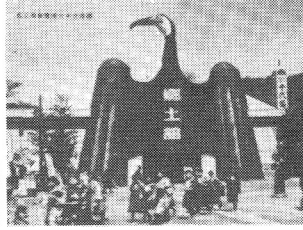


写真-3 博覧会施設と人々
(岐阜市歴史博物館所蔵)

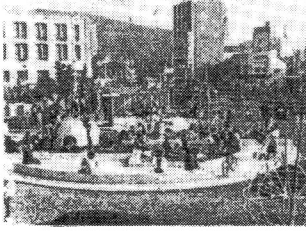


写真-4 児童公園の様子
(『岐阜日日新聞』より)

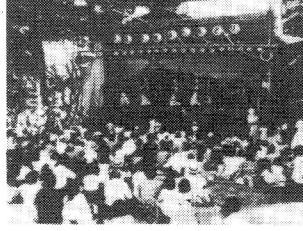


写真-5 岐阜踊り (音楽堂にて)
(岐阜市役所資料)

「イベント会場を訪れた」という観の強い人々の利用の姿も特徴的である。新聞はこのイベントの盛況を伝え、公園の利用が一般的になった記述²¹⁾も見られた。

(4) 1945～1970年：公園への要望の多様化

戦後の高度経済成長やモータリゼーションの影響により都市環境が悪化し、さらに児童公園の必要性が高まった(写真-4)。市民の公園観は、現実的に良好な都市環境を求めるようになり、施設整備への要望が高まった。

(5) 1970～1988年：新しい公園への要望

オイルショック後市民の価値観は多様化し、様々な都市アメニティが求められた。例えば「自然に触れ合う」ことが機能化し広場や公園には親水施設が多く整備された。その他にも、公園空間には市民のため(写真-5)、観光、歴史、緑など様々な施設、サービスが求められた。

4. おわりに

本研究では、近代以降の岐阜市における公園整備及びその利用実態を明らかにし、市民の公園観の変遷を検証した。公園整備にみる都市アメニティの提供は、公園用地取得に始まり、景観整備、施設築造による再整備、博覧会の会場地としての集会施設整備、観光地としての集客施設整備、そして現代に至っては歴史公園、観光地、市民公園という三つの整備方針を並立させた整備へと変化してきた。一方で、市民の公園利用形態は、風景を眺めながら散歩、学習施設の利用、集会場として利用、さらに戦後には市民の日

常的利用や防災目的、自然や観光を目的とする利用など多様化したことがわかった。

このように公園整備と市民の公園利用には相互的な関係性が見られ、計画者側の意図が「公園」という装置によって市民に受容されていくプロセスが明らかとなった。公園のみならず既存の公共空間に対する市民の考え方、公園に限って言えば前時代の公園観の上に、社会的要請や時に市民の要望によって新たな機能が付加され、公園空間、景観として成立してきた。このように、それぞれの時代の市民が持っていた公園観には明確な根拠のない、現実的な都市アメニティが反映されてきたと言える。一地方都市である岐阜市においても、近世以来の都市構造の中にあった社寺境内や山辺などの公共空間の公園的利用が、社会的要請による都市空間の改変により、現実的な都市アメニティの享受という利用形態に変化してきたことが確認された。

本研究では、昭和期までを対象としており、1990年代以降の公園整備にみられる「まちづくり」や「住民参加」の流れについて言及していない。今後の都市アメニティ空間整備に資するために、早急に調査を行う所存である。

謝辞：本研究の資料収集には、岐阜大学附属図書館、岐阜県図書館、岐阜市立図書館、岐阜市歴史博物館、また資料提供には岐阜市都市建設部公園整備室の皆様にご協力頂いた。記して感謝の意を表します。

引用・参考文献：

- 1) 岐阜県史：岐阜県史通史編近代（下）、1972. 3.
- 2) 岐阜市史：岐阜市史通史編近代、1981. 3.
- 3) 岐阜市都市建設部公園整備室：岐阜市の公園緑地、2004.
- 4) 日本公園緑地協会五十年史
- 5) 岐阜市役所：岐阜市の公園、1967.
- 6) 鈴木哲・樋口忠彦・進士五十八・小林治人・高野文彰：公園づくりを考える、技法堂出版、1993. 11.
- 7) 進士五十八：アメニティ・デザイナーほんとうの環境づくりー、学芸出版社、1992. 6.
- 8) 小野良平：公園の誕生、講談社、2003. 7.
- 9) 丸山宏：近代日本公園史の研究、思文閣出版、1994.
- 10) 白幡洋三郎：近代都市公園史の研究ー欧化の系譜、思文閣出版、1995.
- 11) 土井勉：京都市の公園形成史ー第二次大戦前までー、土木史研究、第11巻、pp. 167-174、1991. 6.
- 12) 服部洋佑・佐々木葉：隅田公園の歴史的変遷ー臨水公園の設計思想と空間の変化ー、土木史研究・講演集、pp. 45-50、2004. 7.
- 13) 丸山宏：公園と土地収用、造園雑誌、第50巻 第5号、pp. 42-47、1987.
- 14) 矢ヶ崎善太郎：近代京都の東山地域における別邸群の初期形成事情、日本建築学会計画系論文集、第507号、pp. 213-219、1998. 5.
- 15) 出村嘉史・川崎雅史：近代京都の円山公園における景観構成の分析、土木学会論文集、No. 744/IV-61、pp. 93-100、2003. 10.
- 16) 岐阜市役所：岐阜市史 通史編現代、p. 137、1981. 3.
- 17) 前掲資料5)
- 18) 中部日本新聞、1959. 8. 4
- 19) 「アーバンラウンジ計画」に関する内容は、1985年の岐阜新聞に掲載された
- 20) 前掲文献1) p. 1025
- 21) 丸山幸太郎・道下淳：ふるさとの思い出写真集ー明治・大正・昭和岐阜ー、p. 77、1983.